



万霊堂

本年六月十五日、神戸真言宗連合会主催の「いろはまつり」が、三年ぶりに三宮の国際会館で執り行われ、昨年に続き今年も会長として導師を務めさせていただきました。

神戸真言宗連合会の「いろはまつり」は、昭和三十一年に名称を「青葉祭り」から「いろはまつり」に変更し、昭和三十五年には会場を大倉山の仏教会館から国際会館に移して行われ、神戸の初夏の風物詩とも言うべきものとなりました。

阪神・淡路大震災のあった平成七年にも、会場をハーバーランドの施設に移し、規模は小さいながらもお大師様への感謝と共に、心ならずも犠牲となられた多くの方々への慰霊の誠を捧げて、厳かに執り行われました。そして、それからの三年はハーバーランドに建てられた仮の国際会館にて執り行い、平成十一年に現在の国際会館での「いろはまつり」が再開されました。

あれから二十有余年、神戸真言宗連合会の皆さんは変わることなく、お大師様への報恩の誠と、御詠歌講やご協賛下さる皆様、そして毎年ご来場いただき、叱咤激励して下さる皆様への感謝の真心を以て「いろはまつり」を企画し、運営してこられました。また、少しでもお大師様とのお縁を深めてもらえればと、昭和五十九年に結成された劇団「あじのこ」の団員は、お彼岸が明けた頃から

青葉の笛だより

第41号

令和4年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

続けた「いろはまつり」を二年も続けて中止には出来ない、当山八角堂を会場にして、役員と会員有志だけでしたが、お大師様のご誕生を祝うと共に、疫病退散の願いも込めたお勤めを厳修致しました。

そして今年は種々の制限のある中ではありましたが、皆様とご一緒に国際会館に集い、心ひとつに報恩感謝の祈りを捧げることが出来ました。

「物の興廃は必ず人に由る、人の昇沈は定んで道に在り」。お大師様が庶民の学校を作ろうとして、帝に送られた設立趣意書の一節です。世界では非道な指導者の武力による他国への侵攻や人権弾圧、国民の生活を無視した核開発や弾道ミサイルの実験が起き、わが国では子供への虐待や自分の勝手な思いで多くの人を巻き込む者、人の優しさを、また反対にちよつとした欲を刺激してお金を騙し取る者が後を絶たず、お大師様のお言葉が胸に響いてまいります。このお言葉をかみしめながら、今一度ご先祖様から続くこの生命の尊さに思いを寄せ、忍耐と苦難の日々を送る全ての人々の健康と安寧、平和な生活への早期の回帰を祈り、熱中症に気をつけながら、この夏を過ごしてまいりましょう。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

ら日夜お芝居のお稽古にも励み、演劇布教に取り組んでこられました。

会員みんなが一丸となって取り組んできた「いろはまつり」は、コロナ禍により令和二年に初めて中止となりました。運営を託されたいた皆さんにとっては苦渋の決断だったと思います。そして翌年、コロナ禍は収束することなく、今度は私もその判断をしなければならぬ立場になりましたが、あの震災の時にも

十三佛に見守られて(16)

―大日如来(上)―

摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄厳

今回は、真言密教の最高の主尊である大日如来についてお話しします。

インド密教史の中期(七世紀中頃)、真言密教の所依の經典となる『大日経』と『金剛頂経』(並びにその両系の諸經典)が編纂されました。この二大經典には、密教の事相(実践上の修法や儀礼)と教相(理論的な教理)の大事が網羅されています。

これらの經典の中に、大日如来は、密教の中心となる絶対的な尊格で、諸尊の総主、密教の教主、密教の主尊、密教の本尊として説かれています。

ちなみに、大日如来とは原語(梵語)のマハーヴァイローチャナ・タターガタの漢訳語で、音写して摩訶毘盧遮那如来といひます。

『大日経』の注釈書である『大日経疏』(略して『大疏』)では、梵音(梵語)の「毘盧遮那」は「是れ日(太陽)の別名」と解説されています。また、大日如来の功德として、左の特徴を挙げています。

(1)除暗遍明―一切の闇を除きあまねく照らし明るくする―大日如来の智

慧の徳

(2)能成衆務―よく一切の務めを成り立たせる―大日如来の慈悲の徳

(3)光無生滅―その光が生滅することがない―大日如来の教えの徳

なお、「毘盧遮那」(日)の上に「大」(マハ)を冠しているのは左の理由によりです。

真言密教においては、大日如来は一切の諸仏諸尊をも包容する根本仏で、現実の太陽を遙かに超越した尊格なので、「大」を冠したのであります。すなわち、太陽の光は昼は照らすが、夜は照らし得ないなど、いろいろと明暗があります。ところが、大日如来の光(智慧)は昼夜をともに照らすばかりでなく、広くこの世の暗部もすべて照らします。このように、大日如来は智慧の光をもつてすべてのものを悟りの境地に導き、また慈悲の功德をもつて一切衆生を救護する働きが永遠不滅であるので、「大」の字を冠したのです。それでは、『大日経』によつて、大日如来の説く密教の根本教義を略述してみましよう。

一、三句の法門

『大日経』住心品の教学の中心は一切智智の獲得にあります。一切智智とは一切智の中で最もすぐれた智で、あらゆるものの究極の真理を知る智であります。この智の修得のために、三句の法門が説かれているのです。

さて、『大日経』では、金剛手菩薩(秘密主)が問者となつて、大日如来に種々の疑義を質問するという形式で説かれて

います。

金剛手菩薩は問いかけます。仏の智慧は何を原因とし、何を根本とし、何を究竟とするのですか、と。大日如来は即答します。

「菩提心を因とし、大悲を根とし、方便を究竟とす」と。

言うところは、密教を信修する者は、悟りを求める清浄な菩提心を原因とし、大いなる慈悲の発露を根本とし、衆生を救済するためのすぐれた教化方法を考え出して実践することを究極の目的とするとの意であります。

このように、菩提心を発し、苦修練行して悟りを開くことを目指し、慈悲の心を養い高めることを根柢として、迷いや苦しみに呻吟する一切衆生を救護することを究極の目的とするというのであります。「方便究竟」とは、密教ならではの崇高な教えなのです。

いったいに、仏教修行の目的は、上求菩提(上に向かつては悟りを求める)と、下化衆生(下に向かつては衆生を導き救済する)とを菩薩の目標とします。いわば自利と利他の二利円成を心得とするのであります。

だが、『大日経』の「方便究竟」の教えは、あくまで利他優先です。悟りを開くのも、慈悲の心を起すのも、すべて究極は衆生済度のために、自己の利益(自分の悟り)のためではないといっているのであります。すなわち、自己の悟りを断念しても、悩み苦しむ一切衆生の救済を最優先する

というのであります。

このように、『大日経』に説く教えは、すべてこの三句の教えの中に集約されているといえます。

二、如実知自心

『大日経』では、前述の三句の法門に次いで、大日如来は金剛手菩薩(秘密主)に次のごとくに答えています。

「秘密主よ、云何が菩提とならば、謂わく、実の如く自心を知るなり」と。

この「如実知自心」の教えを弘法大師空海は、主著『秘密曼荼羅十住心論』(略して『十住心論』)の第十卷「秘密莊嚴住心」の中で、左のごとく教示されています。

「秘密莊嚴住心とは、すなわちこれ究竟して自心の源底を覚知し、実の如く自身の數量を証悟するなり。いわゆる胎藏海会の曼荼羅と金剛界会の曼荼羅(すなわち金剛頂十八会の曼荼羅)とがこれなり」と。

この弘法大師の解釈は真言密教の極意を披瀝されたもので、最高の教えであります。すなわち、真言密教の奥義を極めた究極の境地である秘密莊嚴住心にあるのは、衆生の存在は単に自己に対する外的な存在ではない。一切衆生は他ならぬ自心の源底にこそ存在することを如実に感得し、同時に一切衆生は自身と共同体であり、これ又自心の根底に無数の身体として存在していることを完全に身をもつて悟りきるこの大事を説いておられるのであります。(続きは次回に)

四萬六千日燈明会

ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁
日で、この日にお参りすると、四
萬六千日参詣したのに相当する功
徳を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において
初盆精霊供養の法要を執り行
い、引き続き境内にろうそく
で形つくられた巨大な観音様
のお顔、みあかり観音の前で読
経し、皆様方の所願成就・萬霊
供養をご祈念申し上げます。そ
の後、本堂前において和太鼓の
奉納演奏などの催しもございま
す。ご知友お誘い合わせてご参
拝下さい。

一、日 時 八月九日（火） 午後六時より
一、会 場 須磨寺本堂前
一、ご供養・ご祈禱料 ろうそく 一本 千円也
祈禱札 一本 三千円也
経木供養 一霊 三千円也

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆ 八月

- 九日（火） 四萬六千日燈明会 みあかり観音 〈午後六時〉 須磨寺 本堂
- 十一日（木） 十五日（月） 孟蘭盆会
- 十五日（月） 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿
- 十七日（水） 青葉殿孟蘭盆会法要 〈午前九時・正午・午後三時〉 青葉殿
- 十九日（金） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂
- 二十日（土） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂
- 二十日（土） 二十一日（日） 盆大師（ご縁日）

◆ 九月

- 二十日（火） 二十六日（月） 彼岸会 特別護摩折禱 〈午前十時・午後二時〉 護摩堂
- 二十日（火） 二十一日（水） 彼岸大師（ご縁日）

◆ 十月

- 八日（土） 絵本テラピー 〈午後一時半～午後四時〉 青葉殿
- 十七日（月） 万霊堂落慶法要 〈午前十一時〉 万霊堂
- 二十九日（土） 須磨 夜音 音楽法要祭 〈午後六時〉 境内
- 二十日（木） 二十一日（金） 大師縁日

◆ 十一月

- 二十日（日） 二十一日（月） 大師縁日
- 二十三日（水・祝） 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供 〈午前十一時〉 須磨寺境内

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り修行とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を祓い福を招くといわれています。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。

火渡りの方は当日お礼、行者手ぬぐいをお渡しします。

記

一、日時 十一月二十三日（水曜日）

午前十一時開白

一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご祈祷 特別祈祷札 一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火渡り 厄年特別火渡り 五千元

一般火渡り 二千元（先着百五十名）



※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもごさいます。
申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

令和四年 厄年表

平成 十七年生（女性）	厄年	平成 十一年生（男性）	小厄
平成 四 年生（女性）	前厄	昭和五十八年生（男性）	前厄
平成 三 年生（女性）	本厄	昭和五十七年生（男性）	本厄
平成 二 年生（女性）	後厄	昭和五十六年生（男性）	後厄
昭和六十二年生（女性）	厄年	昭和五十八年生（男性）	厄年
昭和三十八年生（女性）	厄年		

陳舜臣先生漢詩碑「須磨寺有感」

神戸市在住で作家、故陳舜臣先生（平成二十七年没 享年九十歳）漢詩碑が平成五年五月三日に須磨寺仁王門前の放生池、龍華橋の畔に建立されました。

陳舜臣先生漢詩碑は「須磨寺有感」と題され「龍華橋の畔に平郎を弔う」で始まる詩の通りに源平一の谷合戦で非業の死を遂げた平敦盛公を偲んで作られた漢詩です。合戦前夜に笛を吹き、平家の栄華を誇った都を偲んだという故事に基づいて、今にも笛の音が聞こえてきそうな情景と、押し寄せる源氏方の軍勢を前に、滅び行く平家の哀れを七言絶句二首に書き上げています。

「須磨寺有感」（和訳）

須磨寺にて感あり

其の一

龍華橋の畔平郎（平家の公達）を弔う

青葉の笛声余韻は長し

底事ぞ海風吹いて腸を断つ

其の二

源家の鉄騎塵を捲いて征す

警報頻りに伝う青葉の管

記するや否や興亡は某一局なるを

笛声清雅にして白沙平かなり



この漢詩碑は、正覚院先代住職故三浦真厳和尚の発願で当時、真厳和尚と交流のあった陳舜臣先生に漢詩碑建立の依頼をされた所ころよくお引き受け下さりました。漢詩碑の制作には、先に山本周五郎文学碑、良寛句碑の製作にも携わった彫刻家、速水史朗先生によって造られています。

正覚院住職 朝倉経義

お寺で学ぶ周活知恵袋

真言宗須磨寺派昭和寺 住職 中山 戒仁

『デジタル資産』の終活「現状の課題と対策」

◆はじめに

最近ではIT化やデジタル化が思いの外早いスピードで進み、公的な手続きにおける利用の開始や電子マネーの普及、家族間等でのコミュニケーションツールとしての利用など日常生活においてもパソコンやスマートフォン等のデジタル機器が老若男女を問わず、必要不可欠になりつつあります。私自身、デジタル機器やサービスには疎い方ですし、専門家でもありませんので素人目線でデジタル資産に対しての疑問や不安をお伝えし、みなさんなりにお考え頂く機会にして頂ければと思います。

◆「デジタル資産」とは？

そもそも「デジタル資産」って何？と思われる方も少なくないと思います。

私なりの解釈になりますが、まずは、「有形資産」と「無形資産」に分けられます。「有形資産」とはパソコン・スマートフォン・携帯電話・タブレット等のデジタル機器そのモノです。記録・日記・写真・取引履歴等のデータを保管している入れ物のことです。そして、「無形資産」とは、IDやパスワードで管理されたデータや取引情報等のことをいい、基本的に本人だけが自由に使用できるものです。そして、ここが言う「無形資産（電子的資産）」にはネットバンキング・ネット証券、ビットコイン等の暗号資産をはじめとする「金融資産」と著作物写真等の「知的資産」と日記や記録といった個人にとって大切な「思い出資産」に分かれるのではないかと思います。

◆「デジタル資産」の処分とは？

デジタル資産の処分については、デジタル資産の所有者・契約者・本人が健在で判断能力も十分にありしていれば、PCやスマートフォン等のデジ

「現状の課題と対策」

ル機器は専門業者（データの移行や完全消去を依頼、破壊処分をする）によってある程度適切に処分できます。また、ウェブ上での取引についても換金や解約等の手続きも容易に行えます。しかし、所有者（契約者）が死亡した場合や事故や病気で判断能力を喪失・低下した場合には、色々な問題が生じます。例えば、

- ① PC・スマートフォン等のデジタル機器のパスワードが分からず開かない
- ② ウェブ上での取引についての情報が全く分からない
- ③ サーバー等に預けたデータの存在の有無やデータの内容が確認できない
- ④ 事業に係る書類（届出書類・会計帳簿・取引履歴等）が分からない等々

が考えられます。何らかのデジタル機器を一人一台は持たれている時代だと思います。このデジタル機器の情報等は最も身近で重要な個人情報であり、プライバシーに関わる情報です。たとえ家族であつてもいたずらに侵すべきではないものだと思いますし、パスワード等の情報を共有することもあまり考えられません。言うなれば、不測の損害や紛争を防止するために、家族であっても個人の通帳の残高やキャッシュカードの暗証番号等を教えないのと同じことだと思います。しかし、所有者に万が一のことが起こったときにPC等が開かないと何も始まりませんし、ウェブ上での取引はサイト内やメールで契約の事務等が完了することが多く、捕捉しにくいように思います。また、事業に係る帳票類や取引情報が確認できないと事業継続が困難になることも考えられます。デジタル化で利便性が向上した反面、ごく一部ですが色々課題があることがお解り頂けたのではないのでしょうか。

◆意外と知らない落とし穴

前述の問題点に加えて覚えておいて欲しいことを2点お話しします。一つ目は、スマートフォンを開こうとしてむやみに適当なパスワードを試して入力しないこと、二つ目はスマートフォン等の契約を早々に解約しないことです。まず、一つ目について、スマートフォン等のパスワード誤入力ですと自動的に初期化されて一度とデータを復旧させることが出来ない機種もあるようです。スマートフォン等にパスワードがかかっているような場合は専門の業者に相談されることをお勧めします。

次に二つ目としてスマートフォンやタブレット等のデジタル機器を所有している方が亡くなった時に早々に解約されることです。「当たり前でしよう、誰も使う人いないのだから。お金もかかるし……」との考えは一見すると当然のことのように思います。しかし、前述べたようにウェブ上のことはウェブ上で完結することが多いです。最近よくニュースにもなるように、ネットでの個人情報流出や詐欺事件を防止するため、契約変更や重要事項の確認はスマートフォン等へ本人確認のためのメッセージや暗証番号等が送られてきて、入力しないとアクセス出来ないとか、そもそも確認できないようになっていくことが多いです。然るべき手続きを経て契約の変更や解約が出来るのかも知れませんが、回復には膨大な労力と費用がかかる恐れがあること、そもそも解約が出来ない等の不利益を被る可能性がありますから、契約者がお亡くなりなっても、早々に解約するのは止まった方が賢明だと思います。

前述の2点とは少し趣旨を異にしますが、補足としてお伝えしたいと思います。それは被相続人がネット取引で証券やビットコインなど保有していた場合、相続人等がその事を知らず放置してしまうと相続税やその追徴課税が課せられたりする等の不意打ちのような処分を被ることもあるということです。相続税の納付には一定の期限がありますから、遺産分割協議や相続税対策

◆対策とは？

問題なのは、PCやスマートフォンを開くためのID・パスワード、ウェブ上での取引をしている金融機関等の情報とサイトへ入るためのID・パスワードをどのように管理するかです。ID・パスワードの管理するサービスを提供している事業者等もあるようですが、セキュリティ対策の視点から定期的にID・パスワードの変更を推奨し、実践されている方も少なくないと思いますので結論としては、ノート等の紙媒体にデジタル機器の種別や取引先等の名称を区別してID・パスワード等の情報を書いておいて厳重に保管するしかないと思います。情報の漏洩、盗難、火災による消失や紛失等の危険もありますが、PC等で一覧を管理するにしても、事業者者に依頼するにしても同様の危険があることはさして変わりないように思います。個人的には、取引履歴等の重要な情報を一覧にしたデータを保管したPC等のID・パスワードだけを紙で保管して、他の重要な書類（遺言書等）と保管した方が不必要に情報が可視化されずに良いのではないかと思います。

◆最後に

はじめに言いましたように、私はデジタルに関しては疎くて得意な方ではありません。だからこそ不安に感じますし、何か対策をしておかなくてはと思っています。そこで勉強会をしたり、相続に詳しい専門士業に相談したりもしましたが、明確な解決策が見出せていないように感じます。みなさんにとって大切な資産を活用維持し、適切に引き継ぐための機会にして頂ければと思います。

この「デジタル資産」等についても詳しく知りたい方は、古田雄介氏（ライター）、伊勢田篤史氏（終活弁護士）の書籍を参考にして頂ければと思います。

須磨寺の歴史〈二十八〉

― 須磨寺の近代 ―

慶応四年（一八六八）三月十三日に発せられた太政官布告（通称「神仏分離令」）により、いわゆる「廃仏毀釈」が起こり、全国で寺院が破却されるという惨事が起こりました。須磨寺も例外ではなく、これにより荒廃してしまいました。

須磨寺に残された記録を見てみると、明治に入り、しばらくは記録がなく、明治十六年（一八八三）に宮内省から荒廃していた須磨寺に保存費として金百円が下賜される、という記録があります。同年に「須磨寺本坊は満願寺の若田智秀師が兼務する」という記録もあるため当時の須磨寺には常住の僧侶はおらず、須磨寺は寂れたままであったようです。



復興の転機になるのは、明治二十一年（一八八八）に長原密淨師が蓮生院の住職として来任したことです。（この時、長原師は、須磨寺山内全ての寺院の住職を兼務していますが、まともな建物があったのは、蓮生院のみであったようです。）長原師は、明治二十四年（一八九一）に神田兵右衛門（初代神戸市市会議長）等の協力を得て、桜の木の寄進を募り、植樹しました。これにより、須磨寺が「新吉野」と呼ばれるほどの、関西屈指の桜の名所となります。さらに明治四十三年（一九一〇）に兵庫電気軌道株式会社（一九一三）に、須磨寺の東側にある大池（堂谷池）周辺に須磨寺遊園地を開園、池の東側には動物園もあり、さらには人形館に料亭や茶店、子供電車遊具完備の運動場、池ではボートに乗って釣りもでき、後にはプールも設置され、須磨寺周辺は大変な賑わいを見せるようになりました。

源平の庭前、若木の桜跡があるところに「植桜記録」が建っています。これは須磨寺を桜の名所にした功労者の神田兵右衛門の功績を称えて建てられたものです。須磨寺にご参詣の折は是非ともご覧になられて下さい。

蓮生院 九月から十月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできますので、写経・瞑想を経験したことのない人でも是非ご参加いただき、疲れた心を癒しにお越しく下さい。

（写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時… 九月四日（土）、

十月二十二日（土）

写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時半

（受付は三十分前から）

場 所… 蓮生院本堂
参加費… 写経五百円・瞑想千円

護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。

数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。マスク着用をお願いします。

当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 ○七八―七三一―二三一一

令和4年 年忌一覽

一周忌	令和三年亡	二十五回忌	平成十年亡
三回忌	令和二年亡	二十七回忌	平成八年亡
七回忌	平成二十八年亡	三十三回忌	平成二年亡
十三回忌	平成二十二年亡	三十七回忌	昭和六十一年亡
十七回忌	平成十八年亡	五十回忌	昭和四十八年亡
二十三回忌	平成十二年亡	百回忌	大正十二年亡

仙師逍遙

七段花（シチダンカ）は山紫陽花の一種。江戸時代中期に來日したドイツ人医師・博物学者シーボルト著の「日本植物誌」の中で紹介され、その後歴史から姿を消して幻の花と呼ばれていましたが、一九五九年（昭和三十四年）に六甲山系で再び発見されました。八重咲きの装飾花が星のように可憐で、現在とても人気があります。



平成元年、須磨寺門前に工房を開くことで、庭で七段花を育てると言う積年の夢が叶いました。私が四十歳の時です。

七月初旬、六甲森林植物園に出かけたのは、その時期愛好者のために、事務所横のフロアーで苗木を販売していると小耳に挟んだからです。

ところがその日所定の場所には、七段花はおろか、園芸販売店そのものが出店しておらず、事務所の方に尋ねると、

「販売は一切を業者に委託している。次の入荷は何時のことかこちらではわからない」という返事。私の落胆の色があんまりだったのか、隣の席の女性職員さんが、

「入荷があったらご連絡しましょうか」と言ってくださったのに甘えて、私の名刺を

お渡しし、感謝の思いを顔二面の喜色に託してその場を辞しました。

そして駐車場に戻り、車のドアに手をかけたとき、

「おい、おい」

と、呼ぶ声に振り返ると、六十歳くらいの男性が足早に私を追いかけて来られていました。

「これあんたかいな」

と、対面するや否や差し出されたのは、今しがた事務所においてきた「仙師山高龍雲」の名刺。

「そうですけど なにか」

と言う私の問いに、

「わたしも龍雲なんや」

そういつて胸のポケットから取り出された名刺には、

「園芸主任 松坂龍雲」と記されてありました。

「事務所に戻って同僚に、今あんと同じ名前の人が来たでと教えられたんやけど、妙な縁があるもんやと思うてな」

そう言われるお顔がとても楽しそうで、

「それは確かに妙ですね」

つられて私も、松坂さんの名刺を手に同じ言葉をお口にしました。

「七段花の苗を買いにきたそうやけど、時間があつたらちよと付き合わんかいな」

その日、工房はお休みに別で急いではいなかったで、そうお伝えすると、

「ほな、こっちおいで」

そう言われるなり回れ右。スタスタ歩きだされた松坂さんの背中を追って、植物園の裏手の雑木林の中のゆるやかな坂道を辿ると、そこにはテニスコート三面分くらいの空間がポカリとひろがり、見渡す限り木や花や苗が

整然と植えられていました。

その一番奥の一角、紫陽花の畝には山紫陽花、

本紫陽花、額紫陽花と区画別にならび、当時まだ花屋さんでは見かけない新種の花と苗があふれていました。

「山紫陽花は温度と湿度のバランスが難しい。六甲山はその点最高の条件が揃っているから、外国産のものもよく育ってくれる。まあ、この辺りのものを持って帰って植えてみたら」

と、畝からはみ出した苗を無造作に選んで、束にして手渡してくれました。それはおそろく余り苗のように抜き捨てられる類のものかもしれないが、抜いて束ねる松坂さんの手つきはあくまで優しく、その苗にはひとつひとつ小さな名札をつけてくれました。もちろん、七段花の苗も含めて。

そのあと大きな桶のつくる木陰のベンチに腰掛けて、水がたづぶり入った灰皿がわりのバケツを挟み、暫く話し込むことになりました。

松坂さんはもともととお寺のお生まれだそうで、龍雲の名前もお寺を継ぐべく名づけられたとか。ただ訳あって僧侶の道には進まず、今は大好きな土いじりの出来る此処でこうしてお世話になっていると、ご自身のことを訥々と語られました。

結局、草木から始まって、職業、ふるさと、旅、読書と、とうとう閉園時間まで話しこんでしまったのは、同名の縁もさることながら余程話題も気心も合ったのでしょう。

その後、松坂さんがわざわざ須磨寺の工房を訪ねてきてくださいましたが、あいにく私は外出していて残念ながら再会はいませんでした。

頂いて大切に育てた苗は二年目から花開いて、なかでもアメリカ原産のアナベルは、大手毬に似た真っ白の花の豪華さに参道をゆく人の足を止めて、何度か名前を聞かれたり、挿木用に小枝を乞われ、ひと枝差し上げたりしました。

七段花は根付いたものの大きさは育たず、五十センチくらいの大のままだ二年目三年目とささやかな花を健気に飾ってくれましたが、その後消えてしまいました。六甲山との環境の違いは如何ともし難いものかと、松坂さんにもご報告しましたが、

「長くお付き合いをしていると、何だか花は咲く場所を自分で決めていっているんじゃないかと思うことがある。」

不思議なことだが、唯枯れる訳やのうて、枯れるときにはもう違う場所に咲くところを用意しているんじゃないか。

山高さんの七段花も、だからもうどこか別のところで花をつけてるやろ」と

と、そんなことを言われました。

震災の後、久方ぶりに植物園を訪ねたとき、もう松坂さんは退官されていました。それ以来音信は絶えてしまいましたが、緑の雨に紫陽花の藍が滲む頃になると、必ず六甲山の懐にいだかれた新緑のひと時を思い出します。

「この世で一緒に生きているんやから、人も草木もおんなじこっちゃ。喜びもすれば悲しみもするやろ」と

と語られる松坂さんの言葉は、煙草を燻らせる横顔と共に私の脳裏から消えることはありません。

美しい楽しい思い出の時間は、大切にすればするほど、いつまでもそのあたたかさを失わず、時を経るごとに輝きを弥増して人生の道の駅にやさしさを添えてくれています。

昨夜来の雨の残っていた曇り空の下、遠い日の紫陽花の記憶を、やわらかい紙に包まれた大好きなお菓子のように、今日もこころの小引き出しにしまっています。

須磨寺大仙師

山高龍雲

≡ 須磨寺 万霊堂 落慶法要 ≡

工事を進めてまいりました万霊堂（共同墓）新築工事が六月末に竣工を迎えました。つきましては、来る十月十七日午前十一時より落慶法要を厳修いたします。

ご寄進、仏具、法具、銅板屋根の奉納下さいます皆様に、深く感謝申し上げます。

万霊堂がこれから永く皆様の祈りの場となりますことを、落慶法要で皆様と共に祈りしたく存じます。ご参拝ご献香くださいますよう、お願い申し上げます。

記

万霊堂 落慶法要

日時

十月十七日

午前十一時 開白



須磨 夜音 音楽法要祭

真言声明と天台声明 平安の響き

十月二十九日 十八時より、第六回となる「須磨 夜音 音楽法要祭」を執り行います。「夜音 音楽法要祭」は、平敦盛をはじめとする源平戦士への供養と平和への祈り、そして度重なる災害における慰霊と復興の祈りを法要の趣旨としています。

法要の内容は、元ブルーハーツのドラマーの梶原徹也氏率いる「神紗」のドラム・和太鼓・舞・三味線の奉納演奏に加え、須磨琴の演奏とKiss FM神戸のサウンドクルー中野耕史氏の語り、そして今回は特別に天台聲明兵庫社会奉仕會と須磨寺の僧侶が共に声明を唱えます。天台宗の声明と真言宗の声明、宗派を越えて共に祈ります。法要の最後には、読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。

夜のお寺の幻想的な雰囲気の中、僧侶の読経と音楽が織りなす祈りの世界を体感して頂き、それぞれの人の心に響く法要にしたいと思っております。そして、お寺に足を運んで下さる多くの方々が、それぞれ平和について考える一つのきっかけとなることができれば幸いです。是非ご知友お誘いあわせてご参拝下さい。

日時

十月二十九日（土）

午後六時より

場所

出世稻荷前 舞台

入場自由

